

## 大和文華館の生立(その3)

おいたち

大和文華館館長 石澤 正男



大和文華館の生立にとって重要な役割をもたれた方々は沢山ありますが、誰れしも忘れてならないのは近鉄の元社長種田虎雄氏と大和文華館前館長の矢代幸雄先生のお2人です。簡単にいえば大和文華館は種田さんの発想に端を発し、矢代先生がその構想を練りあげ、近鉄の力によってできあがったものであります。前号で種田、矢代という全く畑違いの2人の人物が鹿子木孟郎画伯の作品が仲介となって、ただ互に知りあったというだけではなく、どちらも相手の人物に対して深い感銘を受けたこと、それは単に奇縁という程度のもではなく、互の人間的な心の琴線に深くふれあうものがあつたに違いないと思うのです。それにつけても感じるのは、人と人との出会いほど人生最高の機微はないということです。

官途を退かれた矢代先生に最初の温い手を延ばされたのは前号に書いた通り種田虎雄さんでした。当時はすでに国策としての同種の企業合同は全国的に進行中でした。それまで大軌(大阪電気軌道株式会社)社長——もちろんこのほかにも長いつく沢山の肩書をお持ちであったようです——が一番代表的な肩書であった種田さんは前年、即ち1941年に大軌が参宮急行電鉄

株式会社と合併して、関西急行鉄道株式会社という新会社の代表取締役社長の地位に就かれていた時のことです。種田さんは矢代先生を迎える際に大体次のようなことを話されたそうです。この話は直接矢代先生から伺ったものですが、ここには要略してお伝えしておきたいと思ひます。

種田さんは「僕は君が来てくれることを大いに歓迎する。僕は君が学者として素晴らしい業績をこれまで残してこられたことを友人たちからも聞いてよく知っているつもりだ。君がヨーロッパ留学中に欧米学者の研究水準を抜く立派な大著述『サンドロ・ボティチェリ』を英国の権威ある出版社から堂々たる英文で発表されたと聞いた時は同窓の先輩としても非常に肩身の広い思いがしたことをよく覚えている。その後君が美術研究所(現在の東京国立文化財研究所)の創立に関与し、それも美事に果されたこと、その頃から次第に東洋美術史の分野にも研究を進め、今ではその方でも相当の業績を残されたようだし、これから正に学者として円熟の境に入られる段階だろうと想像する。僕にとっては折よく君が官職を退かれて学生生活に専念されると聞いたので、これから僕に大いに君のプレーンを

貸してもらいたいと思いついたのだ。僕は僕なりに1人の事業家としてのフィロソフィを持ち、また夢も抱いている。現在の自分は関西急行鉄道という鉄道事業その他の経営を主宰しているわけだが、この鉄道事業はなんといっても吾々の祖国日本の最古の文化発祥の地域に根をおろしていることになる。従って僕はこの地域は自分たちにとって一番身近なコミュニティ(共同生活体、地域社会等の意)であることはいうまでもないが、日本文化全般からみても歴史的、芸術的に最も重要なコミュニティと考えている。君に向つてこんなことをいうのは、まるで釈迦に説法みたいで笑われるかも知れないが、僕としてはこのような至るところ日本古代文化の栄ある遺産にふんだんに恵まれた地域で鉄道事業を営み、それにより公衆の生活向上や産業振興に貢献できるということに重大な責任を感じると同時に内心大いに誇りも感じている。だから僕はこのコミュニティのためには多角的な視野から沿線の皆さんのためになる事業を経営し、事業から得る収益をできるだけコミュニティに還元したいと願っている。

そういう公共への奉仕事業の一つとして、僕はかねがね次元の高

い文化事業を創めたいという念願を抱いてきた。今のところそれは全く漠然とした空中樓閣にもなっていないものなのだが、僕は是非君にお頼みしたいことは、このような僕の茫漠とした一種の発想を君の構想でいつか具体化できるようにしてもらいたい。君の面前でこんなことをいうのはおかしいが、僕の知る限り、君のように洋の東西にわたる美術に関する蘊蓄の深さ、それと博物館や美術館、図書館のような社会教育に役立つ公共施設に対する見聞の広さ、それに独自の着想と創造力という点で、僕は自分の夢をかなえてくれるのに君以上の人物は考えられないのだ。事務的拘束なぞは一切考えていない。今は大変な非常時だが、君の専門研究のかたわら、暇をさいて沿線を自由に視察して構想をまとめてもらいたい。よろしく頼む。」矢代先生が種田さんの破格な話に深く感謝感激して然諾を約し、2人は固い握手を交わしたのでした。1942年初秋のことです。その頃は旅行や宿泊も次第に困難となっていましたので、会社側の斡旋で矢代先生の関西における最初の足場として選ばれたのが、ここに写真を掲載した河内の有名な道明寺でした。(つづく。50・2・8記)

季刊 美のたより No.31

昭和50年3月1日

発行 大和文華館